

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

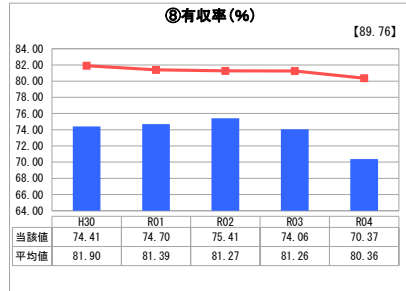
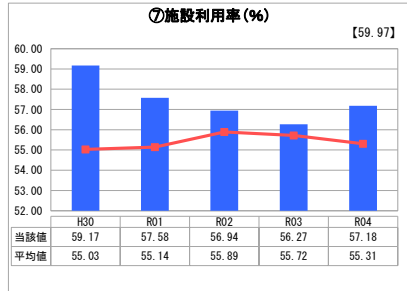
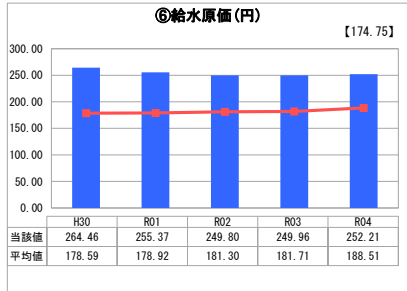
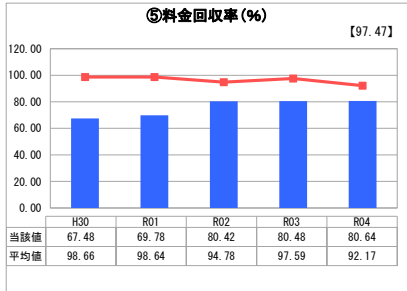
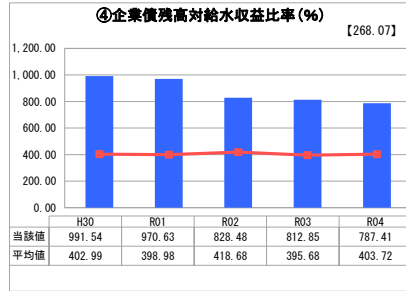
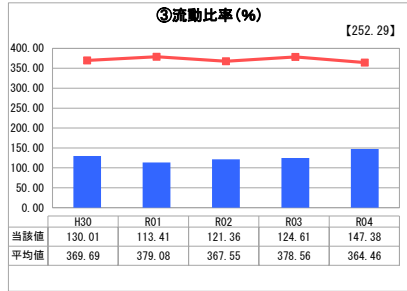
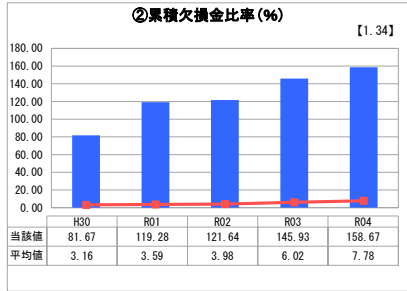
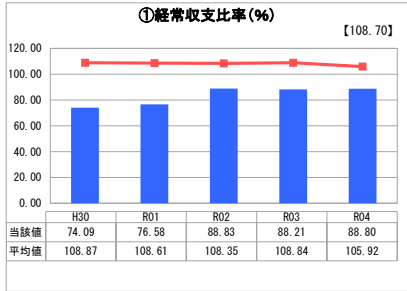
徳島県 三好市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	40.58	84.05	3,630	

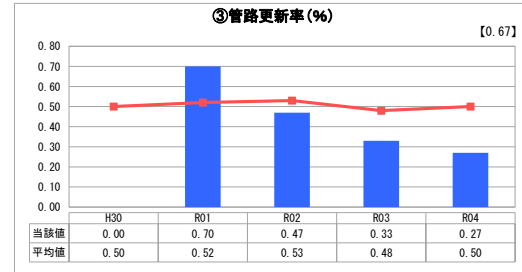
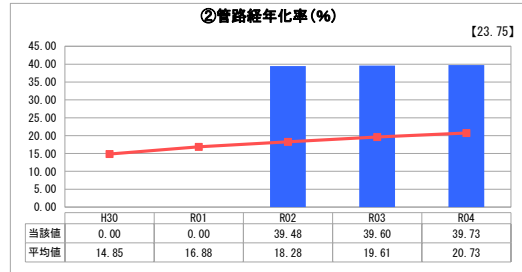
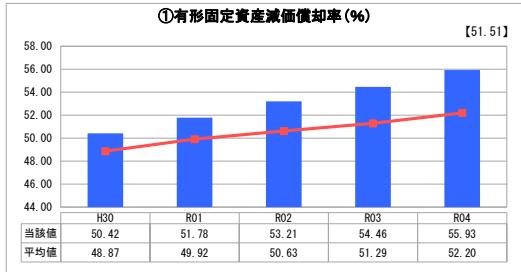
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
23,530	721.42	32.62
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,556	41.41	472.25

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

三好市水道事業においては、広大な面積の中で山間部に施設が点在する経営環境もあり、給水原価が全国平均を大きく上回っている。H29年度より経営統合を行った簡易水道事業においては、社会福祉の面を重視した低価格を用いていた経緯もあり、施設整備の対価としての料金回収率が100%を大きく下回っており、欠損金が発生している状況にある。R2年4月から水道料金の改定を行い増収となったものの、人口減少等により収益は減少傾向にある。経常収支比率、料金回収率ともに100%に達していないため、今後も料金改定含め収入確保が必要不可欠である。支出においては、経費削減の効果もあり、流動比率に若干の増加があるが、全国平均や類似団体との比較では大きく下回っている。施設利用率や有収率の数値も低いことから、点在する施設管理を継続的に見直し、将来の給水人口の動向もふまえたダウンサイジングにより効率性を高めしていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

管路経年化率が全国平均を大きく上回っている反面、管路更新率は全国平均を下回っている。耐用年数経過資産も増加しているところではあるが、十分に更新していける資金の余裕もないことから、施設的重要性、危機度、補助金の有無などを総合的に判断し、計画的に更新事業を行っている。更新の財源の確保とともに、甚大化する災害に対して施設の強靱化もあわせて引き続き検討する。

## 全体総括

利用者からいただく水道料金収入によって、経営に必要な経費をまかなう独立採算性の原則のもと、ライフラインとしての水道を「安全に」「安定的に」供給することが求められる。

R2年度に料金改定を行ってもなお、給水人口の減少等により給水収益は減少傾向にあり、一方で施設の維持や更新にかかる費用は今後増加傾向にあるなど、経営状況の厳しさには変わりはない。

適正な料金算定を行いつつ、経費の削減にも努めながら経営基盤強化を図り、安全性・安定性・強靱性を兼ね備えた水道事業の運営を目指す。